

令和7年度 学生FD CHAmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生意見の集約

実施日	実施内容
令和7年6月21日	<p>【具体的な実施方法】</p> <p>本館3階・第1会議室にてFD委員長、FD委員、教務課員、FD CHAmiT参加学生や工学部ワークショップ参加有志が一同に会し3つのグループに分かれ、約1時間50分に渡って模造紙や付箋を使用して全学及び工学部におけるFDについてグループごとに話し合い、発表した。</p>

学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmiT当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見（学部・学科の問題点）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
<p>【意見】</p> <p>工学部内で学科間交流を深めたい。</p> <p>【理由・経緯】</p> <p>他学科の友達の輪を広げたいため。視野が広がり、知見が深まるから。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <p>他学科の学生と交流することで刺激を受け視点が変わり、様々な知識が身に付く。友人の輪が広がる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</p> <p>フォローアップ研修のようなものを行う。 学科交流を目的としたサークルを作る。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p>
<p>TA・チューターを増やして欲しい。</p> <p>【理由・経緯】</p> <p>専攻により人数に差がある。授業中に問題を解決したい。チューターに指導を受けたくても他の学生で埋まっていて受けられない時がある。上級生と関わる機会が少ない。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <p>学修力の向上。 気軽に質問できる環境づくりの促進。 教員の負担軽減。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</p> <p>大学院生を増やす。 大学院生と教員との良好なコミュニケーションの確立。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> <p>TAやチューター増員に係る人件費の増加。</p>
<p>【意見】</p> <p>①入学準備学習の見直し（オンライン一本化） ②専門分野の内容など事前に学べる「心構え」のようなものを盛り込んで欲しい。</p> <p>【理由・経緯】</p> <p>現在のDVDよりオンラインで学習する方がやりやすい。 工業課程と普通課程からの入学者における専門分野の基礎知識のギャップが大きい。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</p> <p>オンラインだと気軽に隙間時間などを利用して学習でき、学習効率や基礎学力の一層の向上が見込める。 工業課程と普通課程出身者との専門分野におけるギャップが埋まる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</p> <p>学習のみならず課題提出についてもオンライン上で行う。 教員の説明あるいは授業の動画などが視聴できる。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> <p>外部委託の業者による学習のため、要望に見合う業者選定が難しい。 教員の説明あるいは授業の動画作成に要する労力や費用。</p>

学生からの意見（学部・学科の問題点）		対応済	対応中	問題解決のプロセス
4	【意見】 同一の科目で複数クラス開講の科目において、担当クラスの教員により講義内容や課題の有無が異なる場合がある。	○		【①問題を解決することで良かったこと・良くなると見込まれること】 講義内容や課題の有無等が同一であれば学生同士の相談などがしやすい。 成績評価の公平性が保たれる。
	【理由・経緯】 講義内容や課題が異なると、成績評価に影響する可能性がある。			【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 クラス担当の教員間で講義内容や課題等についてすり合わせを行う。
5	【意見】 研究室の配属を決める際の要件を示して欲しい。	○		【①問題を解決することで良かったこと・良くなると見込まれること】 希望する研究室に配属されるための心構えや準備ができる。
	【理由・経緯】 希望どおりにならなかった場合等に備えて把握しておきたい。			【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 ガイダンス等のタイミングで説明する。
				【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 配属人数の偏り等が起きた場合の配属方法など、必ずしも要件どおりにならない場合も考えられる。

令和7年度 学生FD CHAmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生FD CHAmiT（令和7年9月14日(日)開催）後に改善した意見

学生からの意見（学部・学科の問題点）	改善内容
3 ①入学準備学習の見直し（オンライン一本化） ②専門分野の内容を事前に学べる心構えのようなものを盛り込んで欲しい。	<p>①令和8年度入学者向けの入学準備学習については、従前の業者から変更し、受講方法がオンライン一本化となりました。AIを活用して受講生一人一人の理解度を診断することで重点的に弱点が克服できるなど、個人にとって最適な学習内容を提供するコンテンツを展開しております。また、学習動画は1本当たり5分から10分程度と短く設定しておりすぎ間時間に受講でき、集中が途切れないような仕掛けになっています。タイムパフォーマンスが重視される今、時代に合ったコンテンツとなっており、大学入学前の基礎学力アップに寄与します。</p> <p>②各学科の専門分野については、工学部ホームページ等に体系的に掲載しており受験時に確認したことがあると思いますが、入学後は4月初めのオリエンテーション中に各学科で「専門学科オリエンテーション」を行っており、改めて専門分野の紹介や卒業までに必要な履修条件等について、担当教員から新生入生に説明しております。</p> <p>早く専門分野を学びたいお気持ちは理解いたしますが、事前の心構えとしては、先に専門分野の内容を学ぶよりも高校で学んだ教科の基礎学力を大学入学までにしっかり固めた上で専門分野を学ぶことの方が重要と考えており、そのために入学から卒業へと進んでいく体系的な専門教育カリキュラムがありますので、まずは基礎学力の獲得にじっくり取り組んでください。</p>
4 同一の科目で複数クラス開講の科目において、担当クラスの教員により講義内容や課題の有無が異なる場合がある。	<p>同一の科目で複数クラス開講の科目において、シラバス及び教科書、また成績評価を同一としていたとしても、教員それぞれがクラスそれぞれを担当する以上、各人各様で説明の仕方の僅かな違いや履修学生の理解度の違い等による課題の有無等により、当該科目における一切が各クラスにおいて完全一致させることまでは難しいことをご理解ください。</p> <p>しかしながら、複数クラスで展開する授業に当たっては、シラバス作成の依頼時に担当教員間で授業内容等についてシラバスから逸脱することが無いよう綿密に情報共有した上で授業展開するよう全教員に通知しております。</p>
5 研究室の配属を決める際の要件を示して欲しい	<p>毎年度初めの前学期ガイダンスで配布している「履修の手引」の各学科3年次生や4年次生の箇所に、ゼミナールや卒業研究等における研究室配属に係る条件等が記載されておりますので、各自確認してください。</p> <p>どの学科も配属に至るまでのプロセスとして、3年前学期のガイダンスや後学期のガイダンスでそれぞれクラス担任の先生から専門分野や配属方法についての説明を行っており、また、学科によっては夏ごろに研究室訪問の期間を設け、自身の適性にあった研究内容等について直に確認することができるなど、安易に決めてミスマッチにならないよう十分に時間をかけ丁寧に説明しております。このように、研究室の配属に当たっては入念に説明を行い時間をかけた上で後学期に希望調査を行い、配属先を決めておりますので安心してください。</p> <p>しかしながら、1研究室当たりの受入れ人数については上限数があり、希望多数の場合は成績順で決まることもあります。そのため、確実に卒業を目指す意味でも日頃の学修成果は重要です。なお、学科によっては成績以外にも担当教員と面接を行い研究意欲を測って配属を決める制度があるなど、様々な方法で配属しておりますので、早めに知りたい場合はクラス担任の先生に確認するようにしてください。</p> <p>研究室に配属されると、大学院生や教員と研究に関する指導を受けたりディスカッションしたり、さらには進路に関する相談をしたりと、これまでの学修とは異なり、より深い交流による教育研究の場がゼミナールや卒業研究です。</p> <p>その他、1年次生から研究の内容を知る機会として、後学期開講の「ロハス工学入門」では、工学部のキーワードであるロハス工学及び各学科の幅広い専門分野等について早期に把握し理解を深められる科目となっておりますので、ご自身が進みたい分野等のリサーチに活用してください。</p>